

会員名簿登録事項確認調査結果



同窓会会報
第61号

平成9年6月30日
発行所 茨城県茨城郡
内原町鯉淵5965
鯉淵学園同窓会
TEL:029-259-2811
振替口座 宇都宮3-1632番
印刷所 仰双葉印刷

同窓会会員名簿【第12版】七月出版

会員登録者数六千名突破

三年制最後の卒業生(51期)等一六四名が仲間入り

平成九年七月刊行予定の会員名簿【第12版】編集作業は、順調に捗り去る五月九日、登録事項確認の最終調整を経て、印刷工程に進行の運びとなった。同時に、三月十四日、平成八年度卒業生として学園を巣立った三年制最後の本科卒業生(51期)一、二五名並びに、普及専攻科二七名及び研修科二名を合わせた登録総員が、六、一六〇名であることも確認された。

従って、今回の調査から除外された海外居住会員一六名及び、死亡者三九六名を除いた国内居住会員は五、七四八名となる。このうちには、今度の調査で所在を確かめることができなかった四八名の会員が含まれており、最終校正までの追跡に期待が寄せられる。

また、四月九日入学したての新入生を含む学園在校生は、五月一日現在三八九名の在籍で、準会員として掲載される。学年別の内訳は、別表の通りである。

学園教職員については、特別会員として従来通り現・旧名簿に区分して掲載するほか、同窓会役員名簿及び都道府県支部長名簿を新載して内容を充実し、利用の高度化を図った。

更に、裏表紙には、平成七年新図書館完成後のキャンパス航空写真を採用別項に、これからはみ出した男子寮及び農場を鳥瞰紹介し、新図書館正面写真も配して郷愁をそそる学園風景を強調した。会員全員の愛読と、同窓広域の、新旧交流の基盤として活用されることを期待する。

調査カード回収率 五七、四八%

名簿管理は会員相互の
情報交換で、

事務局長 岩持 文彦

今回実施した名簿登録事項確認調査の最終集計は、次の「概要」通りやや低調な結果に終わりましたが、初期の目的が達成されましたことを報告し、深く感謝申し上げます。

特に、文書又は電話通信等によって、所在不明者の追跡を、積極的に「ご支援くださいました各位に對しましては、心から厚くお礼申し上げる次第です。

今後は、不明者皆無を目指した名簿管理を方針として、日頃の情報収集に重点をおいた活動を展開したいと考えますので、一層のご指導ご協力をお願い申し上げます。

【名簿登録事項確認調査結果概要】

名簿登録会員数 六一六〇名
所在判明会員数 五、七〇〇名
所在不明会員数 四八名
外国居住会員数 一六名
死亡会員数 三九六名
調査カード発送件数 五、五三九名
調査カード回答件数 二、一八四名
名簿購入申込部数 一、七〇六冊
(五月九日現在)

当面のお願い

調査カード未回答の方で、手元に保管されている場合は至急ご投函ください。所在明記、特に、字地番は省略せずに正しくお願いします。

また、電話番号の登録も忘れずをお願いします。

在校生学年別在籍状況(平成九年五月一日現在・括弧内は女子再掲)

学年	学年		普及専攻科	研修科	計
	一	二			
農業経営科	九二	八八	七六		五七
学 科	(一五)	(一七)	(九)		(四一)
生活栄養科	三三	三六	二〇		八九
学 科	(一七)	(三四)	(一八)		(七九)
学科以外				四一	四四四
				(二)	(二)
計	二二五	二二四	九六	四二	三八九
	(四一)	(五一)	(二七)	(二〇)	(二二)

名簿講読・同窓交流の奨め

私たちの母校、「農業・生活専門学校【鯉淵学園】」の新生出発と創立五十周年記念に相応しい名簿を自指して工夫したのが今回出版する【第12版】です。

卒業以来、数十年振りに、正しい所在登録で復活した会員が数十名数えられます。反面、卒業間もない若手会員で転居が激しく、もう、追跡困難な所在不明者が数人発生して、多難な居住事情を以て転勤の厳しさが伺われます。

こうした時にこそ、名簿交流の大切さが身に染みます。仲間の動向が早めに把握され、時には、職場や地域での巡り会いに役立ちます。

こんな話もあります。同じ職場で、或いは地域で、何年も同じ活動をしながら同窓仲間であったことに気付かず、大損をしたことです。

これからは、過去の経験を生かして会員全員の愛読書とし、名簿交流の輪を広げて一人の不明者も出さない同窓活動の推進を図りましょう。

名簿購入の申込みは、先に配布した振替用紙を用いて、代金三、五〇〇円を送金してください。刊行次第、直ちに送付いたします。

お手元に、振替用紙がない場合は、事務局に請求するか、郵便局備付の一般用紙をご利用ください。一般用紙の場合、振替料金は本人負担でお願いします。

鯉淵学園同窓会事務局

〒〇二九一―二五九―二八二―

郵便局の振替用紙使用の場合

◆取扱貯金事務センター記号

〇〇 東京

◆口座番号(右詰めに記入のこと)

〇〇三三〇一―二一・一六三二―

◆加入者名

鯉淵学園同窓会

◆通信欄

◆会員名簿【十二版】〇部申込

◆払込人住所氏名

省略しないで正しく記入する。

特に、字、番地を明記して下さい。

学生募集協力をお願い

教務部長 安藤義道

一、学園の近況

入学式から早三ヶ月が過ぎました。今年度は農業経営科学科九三名、生活栄養科

学科三三名の合わせて二二六名の新入生と、県立農業大学校からの編入者七名、それに最後の年となった普及専攻科に四名が加わって合計一七六名の新たな学

生を迎えることができました。在籍総数は四月末日現在で三九一名です。内一三〇名が女子であることから、女子寮は平成八年に杏樹寮と薫風寮が完成したばかりなのに、建て増しが必要になってきました。

もうひとつ学園の大きな動きとして、昨年から新たに就農したいという社会人のための就農準備校を始めました。国の事業ですが、昨年は東京の水道橋で行う入門コース、学園内で行う専門コースと合わせて三〇〇名程が受講しました。今年も継続でやっていますが、特に専門コースは学園環境の魅力もあって好評です。

二、推薦入学・優先入学について

二二六名の入学生のうち、推薦・優先は農業経営科学科が三八名、生活栄養科学科が一六名で計五四名でした。しかし、優先入学ないし同窓生子弟入学は合わせて七名で、少し寂しい感じがいたします。

推薦・優先入学も八年度の場合、農業経営科学科が六一名、生活栄養科学科が二一名であったので、今年は少々減り気味です。もっと多くの推薦・優先入学があったらというのが、学園関係者の願いです。同窓生の推薦には優先入学という形で特別な計らいをもうけていますので、ご理解下さい。

三、今年もご推薦を

この三年ほどは学生数が幸い増えてい

ます。しかし、県立農業大学校等では定員割れも多くなってきました。今は卒業生には専門士、栄養士の資格に加えて、改良普及員・管理栄養士の受験資格もあります。大きな目標に向かって自分の可能性を確かめることができるようになっていきます。推薦入学要項は次の通りです。子弟はもちろん、親戚や近所、友人子弟等でご推薦の方があたらしく紹介下さい。なお、本年度から簡単な筆記と面接試験の導入をしましたのでご注意ください。詳細は学園事務部教務係まで問い合わせ下さい。

推薦入学人員

農業経営科学科(四年制) 約三〇名

生活栄養科学科(四年制) 約一五名

推薦入学候補者の要件

平成十年三月高等学校卒業見込み者

および前年度卒業者

推薦入学願書受付期間、試験日および合格発表日

願書受付 平成九年十月一日

十一月六日

試験日 同 十一月十五日

(場所：鯉淵学園)

合格発表表 同 十一月二十五日

選考方法

提出書類、面接、小論文についての

総合評価

支部・同期の動向

支部長欠員の岡山県及び代行の佐賀県両支部において、それぞれ総会が開かれて新支部長が誕生し、規約制定によって組織の充実が図られ、支部活動の基盤が強化された。

熊本県支部即ち不知火会例会は、例年通りに正月最終日曜日に開かれ、支部長、副支部長を改選、執行体制の若返りを図った。

また、二月二十二日、京都法華クラブに学園長並びに同窓会長を招いて開催の第十期生会は、夫人同伴の勢いをかりて三十八名集合の大盛會に沸いた。

会議概要として、◆開催年月日、◆会場又は開催地、◆代表者、◆出席者又は出席人数、◆主なる会議内容の順に記載する。

○数字は卒期、括弧数字は通信課程卒期である。

佐賀県支部総会

◆平成八年九月七日(土)

◆佐賀市 和食処「おおしま」

◆支部長 原口 豊 治⑧

副支部長(代行)

◆出席者 二十一名

橋口 俊 視③ 橋口 晴 喜②
江頭 茂 喜③ 坂口 ミヨ子②
青木 崇③ 中尾 信 幸④
大曲 栄④ 濟木 清 人⑥
市丸 嘉 澄⑦ 福島 博 文⑥
原口 豊 治⑧ 井上 洋 子⑥
本野 隅 一② 井手 聰⑦
田久保 美 彦③ 森田 道 子③
加茂 孝 夫⑪ 山口 玲 子⑩
佐々木 正 英⑮ 北村 和 博⑩
近藤 弘 道②

◆会議内容 支部規約制定並びに役員選任。

◆新役員紹介(役職、氏名、卒期の順)

相談役 江頭 茂 喜③

支部長 原口 豊 治⑧

副支部長 市丸 嘉 澄⑦

事務局長 本野 隅 一②

幹事 井手 聰⑦

近藤 弘 道② 佐城地区担当
坂口 ミヨ子② 三神 〃
佐々木 正 英⑮ 東西 〃
江口 幸 蔵⑬ 杵藤 〃
本野 隅 一② 通信課程担当

監事 江頭 茂 喜③

田久保 美 彦③

熊本県支部総会

◆平成九年一月二十六日(日)

◆熊本市上通り町一―五

◆焼肉友宝「なつのゆき」

◆支部長 高木 重 成⑩

◆出席者 二十一名(写真紹介)

◆記念写真

◆会議内容 事業報告及び計画の承認、本部事業への協力対策。

役員改選、幹事、会計及び

事務局は再任。

◆新役員紹介(役職、氏名、卒期の順)

支部長 森川 紀 一⑩

副支部長 中村 眞 輔⑬



前列左から

鳥居 憲太郎② 田上 輝昭② 芹口 昭男⑤
鹿江 琢史③ 高木 重成⑩ 村田 芳郎③

後列左から

吉田 幸⑬ 那須 良⑬ 坂田 秀雄③
坂野 裕文⑮ 本田 和稔⑬ 中村 眞輔⑬
野満 洋祐⑦ 田端 義雄⑬ 中宮 輔平②
富田 隆明② 岩間 勇治② 宮崎 大平②
吉丸 隆雄④ 撮影 不在 馬本 清隆②

岡山県支部総会

◆平成九年四月十九日(土)

◆岡山市学南町 カルチャーホテル

◆世話人 藤原 只 巧⑩

◆出席者 二十名

鳥越 力① 清野 弘 治⑮
藤原 只 巧⑩ 竹内 邦 弘⑮

藤井 親 宜①

南 茂 夫②

和 氣 計②

奥 良 雄②

桑 田 健 吾③

池 田 政 廣③

平 田 精 一④

松岡 和 典⑦

佐々木 秀 幸⑯

門 脇 賢 治⑯

桑 村 憲 ⑯

門 脇 賢 治⑯

中 山 喜 文⑯

江 内 邦 幸⑯

竹 上 ミ ワ⑯

◆会議内容 支部規約制定並びに役員選
任。
支部運営協議、懇親会。

◆新役員紹介(役職、氏名、卒期の順)

支部長 藤原 只 巧^⑩
副支部長 桑田 健 吾^③
" 池田 政 廣^②
" 南 清 野 弘 治^⑮
幹 事 南 茂 夫^②
" 奥 良 雄^②
" 桑 村 憲^⑯

十期生会

◆平成九年二月二十二日(土)
二十三日(日)

◆京都市 法華クラブ(京都)

◆出席者 三十八名

菊池 芳子【岩手】 山本 久雄【石川】
小西 三治【秋田】 奥野 正篤【石川】
高橋 忠助【山形】 細田 修理【長野】
須田 鉄二【福島】 福澤 正陽【長野】
市野沢 弘【茨城】 鈴木 辰男【愛知】
山口 公子【茨城】 駒井浩一郎【滋賀】
佐藤 康【茨城】 今井 定彦【大阪】
高橋記美江【茨城】 石郷岡康男【大阪】
篠原 要一【栃木】 加藤 整【兵庫】
梅原 進【神奈川】 奥田 和夫【兵庫】
梅原 陽子【神奈川】 井上 薫【奈良】
志田 定夫【新潟】 藤原 只巧【岡山】
後谷 信一【富山】 松本 清己【山口】
同夫人 寒川 秀男【香川】
永田 清【富山】 宮崎 岩美【香川】
同夫人 岡 一郎【愛媛】

浜本 正成【長崎】 高木 英子【熊本】
高木 重成【熊本】 日高 諦進【宮崎】
招待客
学園長 六戸 弘 明
同窓会長 福丸 博 房

五期生会盛岡市で開催

五期生会が平成九年五月二十一、二十
二日の二日間、盛岡市を中心に開催され
ました。

この会は、私たちが昭和二十五年三月
に学園を卒業してから、丁度十年が経っ
た三十五年に第一回目が開催され、当時
の赤煉瓦の来賓宿舎を会場とし、現在は
亡くなられた多くの先生方にもご出席い
ただいて、ささやかに、暖かい雰囲気
の中でもたれました。

その後、五年毎に開催されてきました
が、去る平成七年十一月三日、鯉淵学園
創立五十周年記念行事を機会に、五期生
会としては第八回大会(卒業後四十五
年)を同時に開催し、二十三名が学園に
集いました。

その際、大多数の意見として、定年・
白髪をむかえた今日、五年おきは長すぎ
るので、今後は二年ぐらいを目途とし、
鯉淵以外の各地で開催しよう、というこ
とが決まりました。その決定にそって、
今回は盛岡市での五期生会となりました。
当日は、十一時盛岡市新幹線の改札口
に集合しました。懐しい顔、はて、顔は
わかるが名前がわからない顔、顔の十八
名の集合でした。

特に感激したのは、病気をしておして車椅

子で会場に現われた那須野章君の姿でし
た。自己紹介をしながらの握手、喜び顔
の那須野君、後で車椅子を支える奥さん
の姿に、会えて良かったの感動ひとしお
でした。

また喜しかったのは、宮崎県の阪衛君
が夫人同伴であったこと、二年生で退学
した京都府楠原権一君の出席でした。今
後は出来るだけ夫人同伴で参加したらの
声が多く聞かれました。

「東家」でのわんこそば大会、橋本美
術館、岩山望郷の丘、盛岡先人記念館、
盛岡手づくり村を経て賢温泉ホテル大観
に着きました。

懇親会前、ロビーで
次回の五期生会の開催
について協議しました。
その結果は、来年十月
山口県で開催する、幹
事は阿川宗十郎、本田
郁二、荒木義見の三人
に決定しました。

懇親会は、五期生十
一名の物故者に黙とう、
砂田君による学園の近
況報告、楠原君の乾杯
により懇親会に入りま
した。懇親会中自己紹
介近況報告がありまし
たが、何れも熱の入っ
た弁舌で、卒業後四十
七年間の時を感じまし
た。最後に寮歌を合唱
し懐しい懇親会を終了
しました。



〔写真説明〕

後列左から 五期生会 盛岡駅に集う
阪衛夫人、楠原権一、植田晴男、大塚和吉、
水野嘉孝、阿川宗十郎、砂田義雄、桜井秀雄、
中列左から 黒田邦雄、花井己代治、那須野夫人、熊谷俊、
橋本幸雄、川上 忠
前列左から 阪衛克己、黒石勇蔵、那須野章、武井貞雄、
杉本文午、小川昭伍

(阿川記)

満蒙開拓指導員養成所思い出の記(下)

二期四組 京都府 金田裕章

◇伝統飼育法の改善と放牧

増殖計画第三の対策は、練り餌給与と放牧による中豚の育成である。当時の養豚は伝統的なドブ飼いが常識であった。残飯に、更に水と醬油粕を加え米糠ふすまを浮かせて与える。豚舎は小さく薄暗くして運動と光線を抑制する。飼育豚は、狭い暗い畜舎でシャブシャブの餌の中に頭を突っ込み、鼻からブクブクと泡を吹きながら競って固形の飼料をあさることになる。結果は飼料効率は悪く疾病に犯され易い。今にして見れば当然の事ながら、給餌法は練餌に切り替え水は別途給与することにしてカルシウムと緑餌を充分与えるように改めた。更に私達は発育の効率が最も良い幼・中豚期を如何に素直に伸ばすかが養豚経営技術のポイントである事に注目し、従来の飼育法を変えて、充分な参考文献も見当たらないが思い切って、離乳後五、六箇月間放牧してみることにした。丁度別の発想から中ヨークとパークシャーのF1を造っていたのでこの一腹と、中ヨークの一腹の仔豚を供試することにした。用地は幅三メートル深さ一・五メートル位の濠を巡らした馬房の利用されていなかった放牧地(一ヘクタール位あっただろう)を活用することとし、仮豚舎は半地下サイロ

の屋根を担ぎ込んで周りに小さい排水溝を掘り、敷藁を入れた。飼槽は一・五

メートル位の長い物を三箇所置き、仔豚が余裕を持って採食出来るように考えた。別に水飲み用を置き給餌は一日二回として一回の給与量を多くした。太陽の恵みを身体一杯に受け、小さな鼻を器用に使って土を掘り雑草を食べ、広い運動場を思いのまま仔豚は走り回った。時には、対岸のよく育った大根畑を見つければ、勇敢な一匹が濠に飛び込むと、それ続けとばかり一列縦隊になって渡河作戦を敢行する姿がみられた。こうなると、すばしく脚の早い彼らには到底叶わない。農場の大木先生に大目玉をくらいい、連れ戻すのに大汗をかき始末であった。かくて育てた仔豚は舎飼いと比べてそれ程体重差はなかったが、胴伸びが良く脚元が締まり敏捷で活力のある中豚となった。舎飼いに戻してからは予期以上に急速な成長を遂げ立派な成豚に育って行った。

コロンブスの卵ではないが、農業改良普及員として私が農家の庭先指導にあたっていた頃、「慣行の打破」と言うことの難しさを、つくつくと感じたものである。曲がりなりにも現実には暮らしか存在しているものであるから、これを葬り去って、新しいものに変えるからには

「責任を持った指導を」と思えば思うほど、「もしや」と不安や逃げの手が頭をもたげ鋒先が鈍ってしまう。これを克服し改良を成し遂げるには、やはり科学的な実態把握と磨き澄まされた知識技術それに決断が必要である。

◇巢立って行った六つの生命

戦後NHKで放映された「三匹の仔豚」のお話は、幼児や若いお母さん的人气を一人占めにしたものである。私は「六匹の仔豚の思い出」をどうしても記さなければならぬ。

それは、豚舎の増殖計画進行の過程で起きた事で、分娩したばかりの母豚が、産道の損傷から細菌感染したらしく高熱を発して分娩五日目に、六匹の仔豚を残して死ぬことに始まる。

ベニンリンも無い当時のこと、可能な限りの手当ては尽くしたとはいえ、残された仔豚の事を思うとき、私は途方に暮れ、小林一郎教授に相談に行き、稗田主任とも協議して里子に付ける母豚はいないか探し回って八方手を尽くしては見つかった。仔豚は放棄せざるを得ない情勢となった。成功率は極めて低い」と小林教授は反対の意向であったが、六匹の仔豚の生命が掛かっていると思うと一とかく出来るどころまでやらしてくださいますこと懇願し、人工哺乳を手探りながらやって見ることにした。即刻必死の学習と当面の手当てに取り掛かった。豚舎には小林教授の研究室があり、その隣

に三畳ほどの管理室が幸い空いていたので、取り敢えず布団と参考書を持ち込み、六匹の仔豚を竹籠に入れて起居を共にしながら管理することにした。

初乳はほぼ五日間飲んでいたので、ある程度の免疫は受けている。とにかく、乳牛舎から生の牛乳を分けてもらい、ゴムホースで一頭ずつ飲ませてみた。仔豚もこちらにも焦るばかりでこぼれる方が多く、どれだけ飲んだのか分からない。静かになったところで、「まあ！飲んだ」と判断するしかなかった。お湯を沸かして一升瓶に詰め、布で包み、柔らかな裏に埋めて母豚代わりに置いてやった。水田厚平さんの「養豚の実際」や、畜産学

汎論の哺乳の関わる文献を、手がかりを求めて一生懸命あさり読みをした。

- ①母豚は仔豚の哺乳と初期排泄を三時間毎に行っている。
- ②泌乳は最初の五分間が勝負で「ゴー」と鼻を鳴らし、その後は始と乳を出していない。
- ③豚乳は牛乳の五倍位濃厚で哺乳用には山羊乳の方がよい。
- ④母豚が保育する場合、乳頭に吸付く仔豚は乳頭毎に決まってしまう。
- ⑤腹部より胸部に近い乳頭ほど泌乳量が多い。
- ⑥仔豚は分娩と共に回虫が母体感染しているの、機を逸せず駆虫が必要である。

など、必要最小限の知識を得ることが出来た。同時に、実践の過程で重要な発

見もあつた。

それは、「どうすれば仔豚に排泄をさせることが出来るか」と言う問題である。人工の場合、出生後何もしないと仔豚は排泄がなく、腹が張り乳も飲まずに衰弱して死に至る。この問題の解決は、いとも簡単なことであつた。体温よりやや高めの温湯を脱脂綿に浸し、母豚が奮めるように局部を軽く二、三回摩擦してやると勢よく排泄が起こる。

さて、学習で知り得た知識をどう組み合わせ、実際に仔豚を育てるか。最も困つたことは濃厚な母乳に替わる人工乳をいかにして作るかであつた。山羊舎の実習中であつた一期の伊藤さんに頼み込んで、牛乳を山羊乳に変えた。粉乳はとでも手に入らないので、排便状況を注意深く観察しながら小麦粉・大豆粕粉・甘藷馬鈴薯・魚粉等を材料に、人工乳つくりに関心した。ビタミン無機質の補給もむづかしかつた。三時間毎の哺乳、排泄も難事であつた。日中はともかく、夜間よくもやり通したものだと思つてゐるが、不思議に目が醒めた。勿論仔豚と一緒に寝ているのだから授乳を要求する鳴き声が耳に入る。眠い目を擦りながら手製の人工乳を温め一頭つづの授乳排泄である。ゴム管哺乳を何日やったか記憶がはつきりしないが、早めに皿で飲むようにしつけた。こうして発育は到底普通のものには及ばなかつたが、一頭の犠牲も出さずに六匹が揃つて成長し、体重も増加して行つた。嬉しいことに、彼

らにとつて私は母親であるから良く懐き、授乳の時には膝から肩頭までよじ登つて吾れ先にと哺乳をねだられそれは大変であつた。二十日もする頃からそろそろ散歩にでたように思うが、どんなに遠くで遊んでいても私の声を良く聞き分け「ブーブー」と呼べば、六匹が一目散に駆け寄つて来る。着ている服は、乳と糞尿と汗とで汚れ、鼻持ちならぬ臭いに纏われながらも、昼食時には仔豚を連れて農場食堂に堂々の行進である。食べ物の一部をテーブルの下に落としてやると、キーキーと喜び、奪い合つて食べる彼等、こうして私は仔豚と楽しみながら食事をつかち合ひ、先になり後になりながら戯れ合ひ、豚舎へと引き上げたものである。一か月も経過すると相当大きくなつたので、舎外運動を始めた。私は六匹を従え、大名行列の殿様にでもなつたような気分農場内を闊歩したものである。そこには誇らしげな喜びと、安らぎがあつたように思う。

かくて、母を失つた六匹の仔豚は、正常豚の発育には及ばなかつたとはいへ、堂々と、農場の分譲仔豚として豚舎を去つて行つたのである。

別れのその時、私は以外にアツケラカシとしていた。不思議に感傷的な気持ちはなかつた。

それはなぜだろうか。「失われる運命にあつた六匹の仔豚の生命が、私の懸命な力添えによつて命永らえ、世に出て行つた」と言う安堵と、満足感が確かめ

られたからだろうか。私のその心の影には、おそらく、多くの家畜の命を犠牲にしてきた懺悔の気持ちが、無意識のうちに波打つていたのではなからうか。この人工哺乳の記録は、私の卒論でもある。有志で発行した「畜産研究会会誌」に報告しており、鯉淵学園寮史編纂の資料として提供したので、今は私の手元にはない。(おわり)

鯉淵学園五十年史 (平成八年十月刊行)

好評発売中 一部六、〇〇〇円

昨年暮に発売された「鯉淵学園五十年史」は、購入を希望された多くの同窓生の皆さんのお手もとに届けられ好評を得ております。

残冊数にまた余裕はありますが、増刷の予定はありませんので購入希望の方は急ぎ申込みされる様ご案内します。申込み方法は、前記の同窓会会員名簿の申込み方法と同じです。六、〇〇〇円の入金確認次第、直ちに送付致します。

ご参考までに、五十年史の内容を目次(写)により紹介致します。

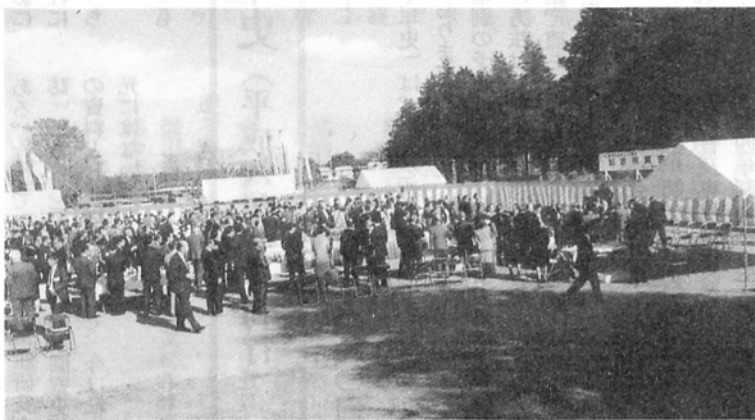
鯉淵学園五十年史 目次

鯉淵学園寮歌	はるかにかすむ筑波峯	四、二年制から三年制へ	四三
鯉淵学園創立五十年史の刊行に当つて		五、普及専攻科の設置	五七
鯉淵学園創立五十周年		六、四年制農業・生活専門学校	七五
第一章 異動と変遷		育協会の設立	二六
一、記念式典	一	二、敷地面積の変遷	一〇
二、記念レセプション	一五	三、施設の整備	二二
三、記念講演会	一六	四、学則の変遷	二六
四、創立五十周年記念同窓会大会	一八	五、教科目の変遷	四六
五、学園祭	一九	六、農民教育協会諸規定	五八
第一章 鯉淵学園の沿革		七、鯉淵学園諸規定	六六
一、前史	二〇	八、組織・運営機構	七二
二、全国農業会高等農事講習所	二二	九、学生負担金・授業料など	七八
三、全国農業会の解散と農民教育	二三	第三章 教育の理念と実践	
		一、建学の理念	八四

二、教育の展開……………	一九二	一、全国農業会高等農事講習 所創設の頃……………	三七八
三、学生募集……………	二一九	二、農民教育協会会長・理事 長……………	三八〇
四、鯉淵学園の発刊……………	二三七	三、鯉淵学園長……………	三九六
五、鯉淵学園教育研究報告……………	二三九	四、名誉教授……………	四一〇
第四章 農場の運営と実践		五、講師(非常勤)……………	四一九
一、学園の変遷と農場……………	二四一	第八章 対外教育活動	
二、農場教育の理念……………	二四六	一、創立当初の各種講習会・ 展示会……………	四三〇
三、農場実習制度の変遷……………	二五二	二、茨城県職員・同農協職員 等の研修……………	四三三
四、農場の作物(目)にみる 変遷……………	二七二	三、農林省委託・鯉淵学園通 信教育……………	四三五
五、平成六年の農場の現況……………	二八七	四、国際協力研修……………	四四五
六、農場と土地問題……………	二九三	五、茨城県長寿学園……………	四四九
七、農場の施設整備……………	二九七	第九章 鯉淵学園の現況	
八、人と農場……………	三一一	一、新教科課程・学年暦……………	四五〇
九、農場を中心とした試験研 究……………	三二七	二、鯉淵学園運営事務機構図……………	四七二
十、農場の生産と緑入金……………	三二五	三、鯉淵学園学則の改正……………	四七三
第五章 学生生活		四、学生募集の現況……………	四七九
一、学生寮と食堂……………	三三八	五、鯉淵学園施設の現況と配 置……………	四八三
二、学生自治会と学友会……………	三四七	六、農民教育協会顧問・役員 及び主要人事……………	四八八
三、全寮制度……………	三五六	七、学生数と学費……………	四九〇
第六章 記念事業		第十章 卒業生の組織と活動	
一、鯉淵学園創立十周年記念 事業……………	三六七	一、同窓会の発足から現行会 則の成立まで……………	四九一
二、鯉淵学園創立二十周年記 念事業……………	三六九	二、同窓会大会……………	四九九
三、鯉淵学園創立三十周年記 念事業……………	三七〇	三、支部活動……………	五〇七
四、鯉淵学園創立四十周年記 念事業……………	三七三	四、学園通信・同窓会報・同 窓会会員名簿の発行……………	五一一
五、鯉淵学園創立五十周年記 念事業……………	三七四	五、卒業生の資格問題……………	五一七
第七章 鯉淵学園五十年の教育に 貢献された人々		五十年余録	
		一、幹訓・講習所・そして学 園……………	五二七
		二、鯉淵学園の英名……………	五二八
		三、記念作業と美化作業Ⅱ環 境美化……………	五三〇
		四、鯉淵の四季……………	五三二
		諸統計……………	五四一
		略年表……………	五五一



創立50周年記念式典 平成7年11月4日



創立50周年記念祝賀会

五、卒業生の資格問題……………	五一七	参考資料……………	五五九
園……………	五二七	編集後記……………	五六二
二、鯉淵学園の英名……………	五二八	口 絵 説 明	
三、記念作業と美化作業Ⅱ環 境美化……………	五三〇	鯉淵学園鳥瞰・五十年記念図書館 農民教育協会歴代会長・同理事長 鯉淵学園歴代学園長・五十年記念 式典・五十年点描	
四、鯉淵の四季……………	五三二	題簽 旧職員 (現・双葉印刷・取締役・会長) 阿部新吉氏	